



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2024. 3. 15 号

文責 小西



「第75回卒業証書授与式」

3月14日(木)、ご来賓並びに保護者の皆さまのご臨席を賜り、第75回卒業証書授与式を挙行了しました。216名の巣立っていく姿をみんなでお祝いすることができました。式辞の中で、本田勇人校長先生は以下の内容を述べられました。



～ 卒業証書授与式 式辞 ～

日一日と温かさが増し、うららかな陽光のもと、校庭の木々の芽も膨らみ、春の訪れが感じられる希望に満ちた良い季節となりました。

ただ今、216名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。一人一人の顔に長崎市立山里中学校の卒業生として、喜びの晴れやかさとともに、新たな人生への旅立ちの決意が感じられ、大変嬉しく思いました。

本日は、令和5年度第75回卒業証書授与式を挙行するにあたり、PTA会長野田直哉様、中学校区の三つの小学校の校長先生方、日頃より本校の教育活動にご理解とご支援をいただいております、地域の皆さま方にご臨席を賜りました。高い席からではございますが衷心より厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、改めまして、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

振り返ってみると、皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染症に向き合いながら、できること、やれることを少しずつ増やしていった3年間ではなかったでしょうか。

皆さんが入学してきた3年前、新型コロナウイルス感染症の影響から、2、3年生の在校生は式場でのお祝いができず、皆さんと保護者の皆様、先生方で迎えた入学式でした。そして、入学してからは、様々な制限や制約の中での学校生活となりました。多くの行事が縮小されたり、延期になったりして、落胆することも多かったと思いますし、特に、上級生の先輩方が残念そうにしている姿を目にして心を痛める場面もあったことと思います。

しかし、2年生になってからは、「With コロナ」、コロナとともにありながら、何とか工夫をしながら学びを止めない、その思いでいろんなことを形にしてくれました。特に、保護者の皆様方のご理解もあり、計画どおりに奈良・京都への修学旅行を実施し、楽しく有意義な時間を過ごせたことは、とても大きな出来事でした。

そして、3年生、最上級生となった今年は、「After コロナ」、コロナ禍後の新しい時代の幕開けにふさわしく、力強く前に進んでいく、その思いで多くのことに取り組んでくれました。体育大会、合唱コンクールでは、多くの保護者の皆様方の参観を得て、この3年間、多くの方の前で直接表現できなかった分、その喜びが弾けるかのように、笑顔にあふれ、躍動する3年生の姿がありました。また、新たな取組として、県外の中学校である、京都御池中学校との計画的な交流や、今の時代に対応した新たな制服、素敵な制服を提案するなど、最上級生として、山里中学校をこれまで以上

に力強く前に、前進させてくれました。

このように立派な皆さんを、山里中学校の卒業生として送り出せることを心から誇りに思います。そして、この3年間、ともに学校生活を過ごせたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

さて、現在の私たちの周りで起こっていることに目を向けてみると、年明けの1月1日には、北陸地方、能登半島において、大きな地震が発生し、多くの犠牲者と、現在も、水道等のライフラインの設備が復旧しなかったり、倒壊した家屋のがれきがそのままになっていたり、大変深刻な状況が続いています。また、世界では、長期にわたっての国どうしの争いや、民族間の対立により、幼い子どもたちをはじめとした立場の弱い人たちの命が危険にさらされている状況もあります。

このような災害や争い等を見聞きすると、あまりにも突然で、とても大きすぎて私たちには、乗り越えられない巨大な困難のようにも感じられます。しかし、私たちは、必ずやこれらの困難を乗り越え、解決して、すべての人々の平和な日常を実現できることを信じていかなければなりません。

そのような様々な困難を解決しながら、日常の平和を実現し、郷土長崎を、この国を支え、背負っていく皆さんに、2つのお願いをしてはなむけしたいと思います。

まず、第一は、**これから出会うであろう「いろんな困難にうまく、上手に向き合っていこう」**ということです。

私たちは、これまで、新型コロナウイルス感染症の困難な状況において、不安定で、不安な時期を過ごしてきました。しかし、私たちはこのような困難にしっかりと、そしてうまく、上手に向き合い、正しく恐れ、工夫しながら、できること、やれることを増やしてきました。そうすることで、私たちは、コロナ禍の困難を乗り越えてきたといっても過言ではありません。これからの、皆さんの長い人生においては、また違った困難や課題が皆さんの前に立ちふさがることもあろうかと思えます。そんな時には、慌てず、落ち着いて、その困難としっかりと、そして、うまく、上手に向き合い、できること、やれることを増やしていったり乗り越えていってほしいと思います。

二つ目は、**これからの人生で出会う、多くの人たちと「つながりあっていこう」**ということです。

私たちは、何かを始めよう、やり遂げようとするときに、一人で始めたり、立ち向かったりするには、ためらいや臆病になることもあります。皆さんはこれまでの中学校生活で、多くの仲間や友人と一緒につながりあって、たくさんの活動に取り組み、成果をあげてきました。このことは、多くの人と人とながつながりあっていくことが、一人一人の背中を押し、立ち向かったり、作り上げていったりする原動力となるということです。どうか、これからの人生で出会う、多くのいろんな人たちとつながりあって、一緒になって立ち向かい、作り上げていこうなど、たくさんのことを成し遂げていってほしいと思います。

「いろんな困難とうまく、上手に向き合っていくということ」「いろんな人たちとつながりあっていくということ」。そのことは、現在の大きな困難や課題を乗り越え、すべての人々の平和と繁栄が実現できることにつながるものと思います。

この3年間しっかりと中学校生活を送ってきた皆さんならできるはずです。これからも期待しています。

終わりにになりましたが、ご列席の保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。中学校の3年間はコロナ禍の中で、不安や不安定な思いで過ごすことも多かったことと思います。しかし、お子様は、9か年の義務教育を修了され、これから、子どもから青年へと力強く歩み始めます。青年期は悩みも多くなる時期でもあります。どうぞ、温かい家族関係の中で、見守り、励まし、そして、支えていただきたいと思います。

私ども教職員一同、お子様の成長と今後のご活躍を心から願っております。

卒業生の限りない前途を祝し、また、感謝申し上げ式辞といたします。

令和6年3月14日

長崎市立山里中学校長 本田 勇人



3年生の卒業式に臨む態度、堂々とした歌声、まさに圧巻でした。在校生も所作や拍手で卒業式を盛り上げ、これまで山里中学校を引っ張ってくれた3年生への感謝の意を込めて、素晴らしい歌声も披露しました。涙と感動の卒業式、3年生のこれまでの功績と熱い思いは在校生へしっかり引き継がれました。

あと半月後は4月となり、新しい年度になります。3年生は高校生や社会人となり、1、2年生はそれぞれ中堅学年や最高学年に進級します。そして、来週は修了式(3/22・金)です。それぞれが次のステージに上がる前に、やり残したことがないかなど振り返り、4月からに備えてほしいと思います。保護者の皆さま、ご家庭での励まし等よろしくお願いします。